

FIE 国際審判員試験 受験報告

2017 FIE 国際審判員試験が 2017 年 3 月 21 日～26 日でタイ王国コラートにて実施された。国際審判員試験には 3 名（笹田健一、佐藤秀明、森田篤哉）が受験した。簡単ではあるが、下記の通り報告する。

試験官は FIE 審判員会の 2 名



EL MOTAWAKEL Mohamed (EGY)

FIE Refereeing Commission President



KNYSCH Irina (RSA)

スケジュール：

3月21日（サーブル）午前：セミナー、午後：実技試験、質疑応答（森田、佐藤）

3月22日（フルーレ）午前：セミナー、午後：実技試験、質疑応答（笹田）

3月23日（エペ） 午前：セミナー、午後：実技試験、質疑応答（笹田、佐藤）

3月24日（サーブル）実地試験（予選プールのみ）

3月25日（フルーレ）実地試験（予選プールのみ）

3月26日（エペ） 実地試験（予選プールのみ）

1. セミナーの主な内容

セミナー及び実技試験、質疑応答試験、実地試験は全て“英語”で行われた。セミナーの最初に審判員の心得、注意点等をモハメド氏が会場内を巡回しながら説明。非常にゆっくりと聞き取りやすい英語であった。続いて、モハメド氏とイリナ氏が交互に説明と補足を担当しながら、当該種目における視点、基本的なルールの解説、セミナー参加者に簡単な質問を投げかけて理解を促すという形式であった。3種目共通して受験者が一人ずつ前方スクリーンの前に立ち、「プレ」・「アレ」・「アルト」等のハンドシグナル（ジェスチャ）と1～2個のフレーズの判定をした。同時に次の順番の者はビデオレフリーとして判定に参加する形式だった。映像ごとにレフリー及びビデオレフリーが判定を行い、イリナ氏が会場の他の受験者に「どうでしょうか？みなさん同じ判定ですか？それとも違いますか？」と我々を試し、実技試験に向けた練習をする機会であったとともに、不明点等を見直すこともできた。練習に使用された映像は各種目において重要なポイントを理解する内容であった。

我々は、最前列に座り、質問やディスカッションには積極的に参加した。セミナーを受講する積極的な姿勢が合否に影響するかはわからないが、能動的に受講することでセミナー内容の理解が深まると感じられた。

2. 実技試験（ビデオ試験）及び口頭試験（質疑応答試験）の主な内容

1) ビデオ試験

試験の始めに、氏名と国名を確認され、続いてビデオ試験を進める上の簡単な説明があった（説明：「“アレ”の号令でビデオが再生されます。その後判定してください。ビデオを確認したい場合は申し出てください。）」。

「プレ・アレ」の号令で映像が開始され、映像上のランプが点くと映像が停止し、続けて判定を行う。判定に誤りがある場合はスローモーションで再度確認するように促される。確認し、正しい判定を行うと次に進む。10フレーズ程度を行った。正しい判定ができて「Why?」と、その理由を口頭で答えるように求められることもあった。時々強い口調で「Why?」と連発されることもあり、動揺する場面も多々あった。

特殊なケースかもしれないが、実技試験の開始時に「判定にはスローモーションでの再生を要求できる」と言われたが、スロー再生を要求しても「スローモーションは必要無い、自分を信じて判定しなさい」と言われ、再生の要求することができなかった。

2) 質疑応答試験

以下に、3名が受けた口頭試験を記す。

1) サンプル（佐藤、森田）

質疑応答5問程度を回答する。

氏名の確認。質問に先立ち、現在の競技との関わりについて聞かれた。

1. 試合前に武器の予備が無い

2. 検査マークが無い
3. 14対14で迎えた最後の判定はどうしますか？
4. パレードした際に相手の剣が折れた。そのままリポストして突いた。
5. 主審のやらなければならない大事な点を5つ答えよ。
6. プール戦の前に主審がやらなければならないことを5つ答えよ。
7. 団体戦において何名までベンチに入ることができるか？また、その際に選手が3名であった場合、監督、トレーナー、通訳など最大何名までチームエリアに入ることができるか？
8. ガードでの攻撃が行われた場合、どうするか？
9. 試合中に怪我をした場合、最長何分の小休止をとることができるか？
10. 主審がビデオリプレイを確認するのはどのような時か？
11. W杯の団体戦においてメタルジャケットの名前がない場合どうするか？
12. ビデオの要求ができるのは誰か？またその回数はいくつ？
13. 足を交差した選手が行なったアタックの際にコントロールアタックを受けた場合、どうするか？

2) エペ（笹田、佐藤）

競技経験、国際レフリーライセンスの取得する目的を聞かれた。

実技試験（ビデオ）は10フレーズ程度での主な内容

クードゥブル、相手以外のトッシュ、エンドラインオーバー、剣を持たない腕の使用、交差後の突きの有効・無効、コル・ア・コル等

1. 剣を持たない腕を使った場合
2. 突いたがランプに記録されない。選手が検査を申し出た際の確認手順
3. 同時に突いたが、片方の後ろのプラグが外れていた
4. 構えた時、選手の1人がピストを突いている
5. 構えた時、剣を持っている腕がさがっている。ピストは突いていない
6. プレー中にガード・マスク・ユニフォーム・ボディーワイヤーを触った

3) フルーレ（笹田）

実技試験（ビデオ）10フレーズ

1. 試合前に武器の予備が無い
2. 検査マークが無い
3. 団体戦で34対40、40点を取っているチームの選手が負傷をした交代選手はしない。試合結果は
4. 剣を持たない腕を使った場合

3. 実地試験

実技試験及び質疑応答試験の合否結果を踏まえて実地試験に進むと予想されていたが、事前に合否のアナウンスがなく、全員当該受験種目の審判会議に集められた。

アジアカデ選手権の当該種目の個人予選プールにおいて、FIE 審判員が試験官になり3名の受験者で行った。間違いがあった場合は試験官が判定を変更するという形で行われた。(FIE 審判試験規定)

7名プールを2～3名で2マッチごとに交代して審判をしたり、連続で半分の11マッチの審判を行うなど、試験官によって異なる内容であった。フレーズの判定に関してはFIE 審判員がチェックしているものの、それ以外(武器検査や試合進行に関する管理等)はモハメド氏とイリナ氏が巡回してチェックしていた。佐藤氏は途中、モハメド氏から「重りを使用する検査」について実演を交えて指導された。加えて、ネクタイの緩みなど服装についての指導もされた。

4. 最後に

国際審判員には、FIE 規則 (t, m, o) の熟知はもちろんであるが、どのような状況にも動じない強い精神力が求められていることがわかった。結果として、全員が試験をパスすることができた。何がどのようにできたのか自覚することが困難な試験であったというのが正直な感想である。言えることは、今回の試験官の2名が我々日本人受験者に対して非常に教育的な配慮をされる人物であったことだろう。加えて、ここに至るまで多くの方々のご尽力があつての結果である。忙しい合間を縫って、試験に向けた勉強にお付き合いいただき、また叱咤激励をいただいた国際審判員の山口克己氏、現地にて励ましていただいた日本スタッフの皆様に感謝を申し上げたい。

以上

文責 笹田健一・佐藤秀明・森田篤哉



試験最終日 FIE 審判員と共に記念撮影に参加